

# “楽しさ”から“おもしろさ”へ

～探究し、思考する保育を目指して～

心のトキメキから知的なヒラメキを生む環境構成と子どもの変容



## 子どものトキメキとヒラメキに迫る

これから到来する Society5.0 時代には、自らが課題意識をもち、仲間と考え、探究し、創造していく力が求められます。そこで本園では、これまで研究を重ねてきた「自尊心」（心）と「からだ力」（体）を基に、思考力を育む研究を進めています。子どもたちがどんな「人・物・出来事」に心をトキメかせ、そこからどのようなヒラメキが生まれてくるのかを読み取り関わっています。

研究を重ねてきたことで、日々の保育で、探究し、思考する子どもの姿が見られるようになってきました。そこで今年度は子どもの変容を見とり、その要因を探ることで、探究し、思考する保育のあり方を探っています。



## 【子どもの見方がかわった】

これまでの保育

探究し、思考する  
子どもの姿

限定された見方

活動内容のねらいに沿った  
子どもの姿を捉えていた

今年度の保育

探究し、思考する  
子どもの姿

広がりのある見方

今まで見えていなかった、  
探究し、思考する姿を捉え  
られるようになった

トキメキとヒラメキの視点で  
子どもをみる

トキメキ…子どもたちが「人・物・出来事」に出会ったときに、感じる面白さや  
ワクワクした気持ちであり、心が揺れ動かされること  
ヒラメキ…トキメキを受け、子どもが感じたり、考えたりしたこと

## 【子どもがかわった】

子どもの変容を見る…これまでの保育の中で見られていた「探究し、思考する姿」と、研究実践を重ねてきた今年度の保育の中で見られる「探究し、思考する姿」を比較する

ねらいがかわる

活動内容のねらいから、子どもに育みたい資質能力のねらいへ

援助・環境構成がかわる

保育者のねらいに近づくための援助・環境構成から、子ども一人ひとりのトキメキとヒラメキを読み取りそれに沿った援助・環境の再構成へ

子どもがかわる

活動内容のねらいに沿った子どもの姿から、一人ひとりがトキメキとヒラメキを繰り返しながら、探究し、思考する子どもの姿へ

## 【先生もかわりはじめています】

子どもの中にある  
トキメキとヒラメキを  
見つけ出したいと思うようになり、  
少し待つようになった。

子どもの今、この瞬間の  
トキメキやヒラメキを大切にする  
ようになった。子どもの今のねがいを  
叶えられるように、すぐに一緒に  
考えたり、必要なものを探したり  
するようになってきている。

遊びや活動の展開ではなく、  
子どものトキメキやヒラメキが  
どのようにつながっているのかを  
見るようになった。

答えは全て  
子どもの中に!!





### 水遊び（3歳児）

ねらい

○様々な水遊びを通して水に慣れていく。

環境構成

- ・クラスで一緒に水遊びを行う。
  - ・どの子どもも水遊びの活動の幅を広げることができるように保育者が計画的に環境を設定する。
  - ・みんなが水遊びを経験できるように同じ用具を数多く用意する。
  - ・保育者が経験してほしいと考えたことができるような道具を用意する。
- 材料・用具：色水遊び【絵の具を溶いた水、白いカップ、小さいペットボトル、洗剤スプーン】  
洗濯遊び【洗面器、布、ままごとスカート】

子どもの姿



探究し、思考する姿

繰り返す

その日に設定された水遊びの環境の中で、水遊びの活動を繰り返し楽しんだ。  
 ・色水遊び：用意されたカップとペットボトルに洗剤スプーンで色水を入れたり、移し替えたりすることを何度も繰り返す。  
 ・洗濯遊び：布やままごとのスカートなど、洗うものがなくなるまで、水で洗って干すことを繰り返し楽しむ。

ねらい

○自分なりの方法で水に触れて遊ぶことを楽しむ。

環境構成

- ・好きな遊びの時間に水遊びを行う。
  - ・タライに水を入れて用意しておく。水がなくなったらその都度足していく。
  - ・子どもがどのように水とかわかっているのか、どのように遊ぶことを楽しむのかを見ながら道具や場の設定を変えていった。
  - ・毎日継続して遊ぶことができるように水や用具を用意する。
- 材料・用具：【大小ペットボトル、透明カップ、じょうろ、大小バケツ、ペットボトルのじょうご、洗剤スプーンなど】

探究し、思考する姿



試す

自分なりの方法で水に働きかける

・水とペットボトルだけでこんなにヒラメいて遊ぶんだ!!



タライの水の中に手を入れてかき混ぜたり、容器に汲んだ水を地面に円を描くように撒いたり、じょうろで草花に水をかけたり、ペットボトルに入れた水を空に透かして見たり、それぞれの方法で、水の感触を楽しんだ。水そのものに、それぞれのペースで慣れていき、かかっていく姿があった。

水の性質を感じて遊ぶ



友達を見て真似る

ペットボトルに水と花を入れ、縦や横にして花が水に浮かぶ様子を不思議そうに眺めたり、実を入れて沈む様子を見たりして、水の中でモノが浮いたり沈んだりすることを実感していた。また、水に砂を混ぜると、水が濁り、色が変化することを楽しむ姿があった。その他にもペットボトルに入った透明の水を覗くと、向こう側が大きく見えることに気づき、水がレンズの役割をすることで生じる面白さを感じていた。

### 水遊び（4歳児）

ねらい

○ノッポ筆を使ってダイナミックに地面や板に水で絵を描いて楽しむ。

環境構成

- ・ノッポ筆を使って水遊びをすることで、水がかかることを嫌がっている子どもも水に触れ楽しめるようにする。
  - ・水で塗った部分の色が変わることや思いきり塗ることを楽しめるように大きな板を用意する。
  - ・様々な場所で塗ることを十分に楽しめるように一人ひとつのバケツを準備する。
- 用具：【ノッポ筆、バケツ、板】

子どもの姿



探究し、思考する姿

目的に向かってやり続ける

大きな板の全面に思いきり塗って遊ぶ。保育室の周辺のいろいろな場所にどんどん塗っていき、塗り終わると、他にも塗れる場所はないかと保育室から離れたところにも探しに行き、自分の見つけた場所を塗りきることを目的に根気よく楽しむ。

ねらい

○いろいろな用具を使って自分なりに工夫しながら、水遊びを楽しむ。

環境構成

- ・ノッポ筆を使って水遊びをすることで、水がかかることを嫌がっている子どもも水に触れ楽しめるようにする。
  - ・様々な場所で塗ることを十分に楽しめるように一人ひとつのバケツを準備する。
  - ・子どもの「雨」のイメージに合わせて、ビニール傘を出す。
- 用具：【ノッポ筆、バケツ、すのこ、ビニール傘】

探究し、思考する姿

水の性質を遊びに取り入れる

予測して試す

・ノッポ筆のあそびで地面や板を塗るだけじゃなかったんだ！子どものヒラメキってすごい!!

園内の塗れる場所がなくなると「自分の足に塗ったらどうなるだろう」と、足の裏に塗り始める子どもが現れた。保育者も一緒に面白がりながら塗っていると、その足でレンガの道を歩き、足跡がつくことを楽しんだ。その後、履いていたサンダルにも水を塗って、サンダルの跡をつけることを試す姿も見られた。

目的に応じて用具を選ぶ

目的に合わせて試しながら用具の使い方を考える

筆に水をつけて振ることで雨のように降らせることを楽しみ始めた。保育者に向けて雨を降らせてきたので、透明のビニール傘を出して雨を受けた。すると、大きくダイナミックに筆を振っていた動きが、傘に雨を降らせようと、筆の持ち方を変え筆先を下に向け、左右に細かく振り始めた。傘にたくさん雨を降らせたいと考えた子どもは、筆に水をつけるために使っていたバケツの水で思いきり上から降らせ始めた。何度か繰り返すうちに、上手く傘にバケツの水がかかるように、水の量を調節したり、バケツの持ち方を変えたりするようになった。

### 製作活動（5歳児）

※一学期終わりの会（終業式）の次の日の夕方に年長児だけが幼稚園に来る行事（夕べのつどい）にかかわる制作活動

ねらい

○自分なりにうちわを飾る。夕べのつどいのねらい：共通のテーマに沿って活動することを楽しむ。

環境構成

- ・夕べのつどいでは、子どもの好きなことをテーマにして、保育者が計画的に活動を考える。
  - ・夕べのつどいを楽しむためにうちわを準備する。
  - ・うちわを飾るために子どもたちが考えた素材を準備する。
- 材料：【キラキラの折り紙やテープ、リボン、油性ペン】

子どもの姿



探究し、思考する姿

うちわを飾る方法を考える

うちわを飾るとパワーが出ることを保育者が伝え、どのように飾るか話し合いをする。子どもたちは「キラキラ光るモノがいい」「絵も描きたいと思う」など、それぞれに考えた。

ねらい

○目的に向かい、工夫したり試したりする。夕べのつどいのねらい：自分たちで考えたことを実現させる。

環境構成

- ・夕べのつどいでどんなことをしたいかを子どもたちと話し合う機会をつくり考える。（話し合いで「なつまつり」をすることになった。「なつまつり」の1つのコーナーで自ら選んで活動の時間に楽しんでいる水鉄砲の射的をすることに決めた）
  - ・水鉄砲を使った射的の当てるために必要な素材を子どもたちが考え、それを準備する。
- 材料：【ペットボトル、カップ類、ヤクルト容器、バック類、キャップ、牛乳パック、ビニールテープ、油性ペン等】

探究し、思考する姿

モノの性質を考える

・僕の想像を超える子どものヒラメキにトキメいた!!

自分たちで必要な素材を考える

水鉄砲で射的をするための的をつくることになり、どのような材料で作るか話し合った。ペットボトルやカップ、牛乳パックなど子どもたちから様々な提案が出てくる中、「段ボールはどうか？」という意見が出た。すると「段ボールとか箱とか紙は水に濡れたら破れるからやめといた方がいいと思う」と、友達の話聞いて、自分が考えたことを話す姿が見られた。

仕掛けを考える

目的に応じて工夫する

子どもたちは自分で必要な素材を選び作った。始めは、「怪獣みたいな的にする」など、一人一人がイメージした形的素材を組み合わせながら作っていた。それぞれが的を作っていくうちに、子どもなりに的に水が当たった時の仕掛けを考え始めた。「信号的にして、青はラッキー、赤はあかん」と、同じでも当たる場所による違いを考えたり、「当たったら音が鳴るようにしたい」と、容器の中にキャップなどを入れて目的に合わせて工夫をしたりしていた。

目的に応じて素材を選ぶ



# 【フォトチャット研修（本園開発）】

本園が開発したフォトチャット研修：一枚の写真を使って保育者同士が語り合う研修スタイル

・研究を進めていく中で、知りたい事、明らかにしたい事などに合わせてスタイルを変えることができる。

私たちの保育はこれで変わりました!!



□ …フォトチャットの方法（例：その時の研究内容等）    □ …フォトチャットのメリット

## ①2017年度～



○写真を掲示する  
通りがかりに会話をする  
(例：保育者が感じる保育の楽しさについて)

保育者同士のコミュニケーションのきっかけになる  
イメージの共有がしやすい

## ②2018年度～



○写真とエピソードを掲示する  
(例：思考力の芽生え)

業務多忙中でも互いの保育を共有できる  
保育の記録につながる

## ③



○写真の考察になる枠組を追加する  
<枠組の内容>  
(例：A要因 B学び C環境の再構成)  
○写真を見た人が自分の考えを付箋に書いて貼る

明日の保育につながる環境の再構成につながる  
ボード上で意見交流ができる

## ④



○写真にタイトルをつける  
○エピソードを語る場をもつ  
○気付きを付箋に書く  
(例：思考力の芽生えにつながる姿・要因)  
○付箋を分類し、キーワードを抽出

保育観の共有  
同僚性が高まる  
エピソードのポイントが明確化される

## ⑤



○学年毎に学期毎のキーワードを整理する  
(例：探求し思考する姿・要因)

長期的に保育を振り返ることができる  
学年毎の特徴が明確になる

## ⑥2019年度～



○エピソードを語る（3分）  
○視点を決めて語り合う（7分）  
(例：トキメキ・ヒラメキ)  
○記録者が聞きながら整理する  
(例：トキメキ・ヒラメキ・わかったこと)

短時間で核心にたどり着く  
自分以外の保育者の援助や環境の再構成のタイミングを共有することができる